

大漁 ふらいき

平成22年3月

第16号

■発行
(社)岩手県栽培漁業協会

社団法人 岩手県栽培漁業協会だより

ホヤ種苗量産化技術開発

県の委託を受け平成21年12月21日から11回にわたり大船渡事業所にてホヤの採卵採苗を実施しました。写真は親ホヤの放卵、放精の瞬間です。ホヤは雌雄同体で、卵と精子を同時に放出します。この親ホヤは4年子で、一個あたりの卵数は約70万個といわれています。

(写真提供…岩手県水産技術センター)



『ふらいき』 第16号 目 次

- ・専務理事から 専務理事 宮澤公明……………2
- ・種苗生産実績報告 アワビ、ウニ、イワガキ、ヒラメ、マツカワ、アユ ……3~4
- ・海上あんでな 大船渡・種市の水温 ……5
- ・酒のさかな 「マテガイ」 ……6
- ・編集後記 ……6

本 所 〒022-0001 大船渡市末崎町字鶴巻120 TEL 0192-29-2135 FAX 0192-29-3099
E-mail saibai@it-saibai.or.jp

種市事業所 〒028-7915 九戸郡洋野町種市20-177 TEL 0194-65-4750 FAX 0194-65-4706
E-mail taneichi@it-saibai.or.jp

協会経営波高し!?

専務理事 宮澤公明

私が専務に就任して2年目を迎えますが、この間、県、市町村、県漁業系統団体、漁協の会員の皆様には、温かいご支援ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。また協会の職員、従業員の方々の頑張りにも感謝いたします。

平成21年は、米国発の金融危機が引き金となり世界的な経済の停滞をもたらし、日本においても景気の後退、消費の低迷、最近では「デフレ」による物価の下落など不安な世情となって参りました。

気になる原油価格についても、一時は30ドル台にまで下落しましたが、現在では80ドル前後にまで上昇し、さらなる価格の上昇は避けられないのではと懸念しております。

協会としては経営安定のためタイヤボイラーの効率的稼働や生産工程の見直しを図り、コストの縮減に努めて参ります。

さて、平成21年度の種苗生産実績と課題を振り返って見ますと、アワビについては、前年度のような低水温の影響もなく順調に推移し、ほぼ需要を満たすことが出来ましたが、前年度より供給数は減少しました。また、近年は大型種苗の需要が多く、施設能力ぎりぎりの生産状況となっています。ウニについても概ね順調に推移しましたが前年度より供給数は減少しました。また、年々需要数が減少しており、本年度の需要調査の結果を見ると、平成22年度には大幅な需要減が見込まれる状況です。

ヒラメについては毎年順調に推移し、計画110万尾を上回る放流が実施されました。

マツカワについては昨年のような仔魚の大量斃死もなく順調に推移し、計画10万尾を若干上回る放流が実施されました。しかし、ヒラメ、マツカワともに当初の増産目標或いは試験目標を達成できていないことから、平成22年度に見直しが行われ、ヒラメは種苗生産経費や経費負担方法の見直しなどを検討した上で平成23年度以降も継続に、マツカワは事業化への移行は中止になる見込みです。

アユについては孵化方法の改善などにより概ね順調に推移し、また、新たな需要の開拓により計画を大きく上回る出荷となりました。

イワガキについては順調に推移し、昨年を上回る供給実績ではありましたが、需要数が少なく、単独事業としてみると収支が合わない状況で、今後、事業として継続できるかを検討することとしています。

ナマコについては県による技術指導により順調に推移し、昨年の約20万個を上回る種苗供給が出来る見込みです。しかし、県内の需要調査を実施したところ14万個強しかありませんでした。ブームとなっていたナマコですが、価格の下落などもあり一頃の勢いも失いつつあるようです。県外需要もあることから、今後事業として継続できるか検討する必要があるようです。

協会としては種苗生産能力は十分あるものの、柱となるアワビ、ウニの需要減やヒラメ、マツカワ事業の見直しにより、今後、大幅な収入減が見込まれることから、協会経営は大変厳しいものになります。

本年度はこれら諸問題に対応するため、協会の事業、組織、運営の全般にわたって検討し、役職員一丸となって、この難局を乗り切っていこうと考えています。

会員の皆様におかれましては、協会の役割や現状をご理解の上、今後ともご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

種苗生産実績報告

アワビ



平成21年度のアワビ種苗は、ほぼ需要を満たす事ができました。しかし需要数の減少により、供給実績は昨年より175千個の減少となりました。

平成21年度 アワビ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻長(mm)	賦課金(千円)
久慈	8	1,220,500	33.4	81,429
宮古	7	603,600	31.9	38,411
釜石	2	327,500	30.1	19,689
大船渡	1	79,000	31.0	4,886
県外	1	24,980	40.0	2,413
合計	19	2,255,580	32.5	146,828

ウニ



平成21年度のウニ種苗生産は概ね順調に推移しました。しかし需要数の減少により供給実績は、昨年より114千個の減少となりました。

平成21年度 キタムラサキウニ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻径(mm)	賦課金(千円)
久慈	7	2,410,000	17.1	47,605
宮古	2	9,500	20.6	226
釜石	2	23,000	16.0	426
大船渡	1	1,000	17.5	20
その他	1	500	15.0	8
合計	13	2,444,000	17.1	48,285

平成21年度 エゾバフンウニ種苗供給実績

地区名	会員数	供給数(個)	平均殻径(mm)	賦課金(千円)
久慈	5	155,000	17.4	3,112
釜石	2	42,000	15.2	737
大船渡	1	2,000	21.8	50
合計	8	199,000	17.0	3,899



イワガキ

イワガキ種苗は、一部出荷時期の遅れがあったものの概ね順調に推移し、供給実績は、県内、県外あわせて1,511連（45,330枚）となり、昨年より161連（4,830枚）上回り、需要を全て満たすことが出来ました。

平成21年度 イワガキ種苗地区別供給実績

地区名	会員数	連数	枚数	頒布金(千円)
宮古	5	594	17,820	1,871
釜石	1	30	900	104
大船渡	3	630	18,900	2,115
県外	11	257	7,710	919
合計	20	1,511	45,330	5,009



ヒラメ

採卵は、4月中旬から14回（受精卵9,322千粒、ふ化数7,763千尾）行い、ふ化仔魚2,400千尾で生産を開始しました。飼育は種苗生産期（仔魚期・稚魚期）、中間育成期とも順調に推移し、生産数は1,636千尾で放流数は1,159千尾で計画を上回りました。

なお、差し引き477千尾は早期放流試験及び隣県等への相互融通で提供しました。

平成21年度 ヒラメ種苗生産実績

区分	収容数(千尾)	取り上げ数(千尾)	平均全長(mm)	生残率(%)
種苗生産	2,400	2,221	30.09	92.5
中間育成	1,744	1,159	89.32	66.5



マツカワ

採卵は1月中旬から2月中旬に8回（受精卵6,275千粒、ふ化数3,917千尾）行い、ふ化仔魚数合計1,350千尾で生産を開始しました。飼育期間の種苗生産期（仔魚期・稚魚期）に若干のへい死がみられたものの、中間育成期は順調に推移し、放流数は101.8千尾で計画を上回りました。

平成21年度 マツカワ種苗生産実績

区分	収容数(千尾)	取り上げ数(千尾)	平均全長(mm)	生残率(%)
種苗生産	1,350	345	31.0	32.9
中間育成	209	190	102.2	90.9



アユ

種卵は、海産系の県内養成親魚で採卵し、種苗生産を開始しました。

ふ化仔魚3,525千尾で生産を開始し、飼育は初期減耗があったものの概ね順調で種苗は12月上旬から2月中旬まで3,648kgを出荷し計画を大幅に上回りました。

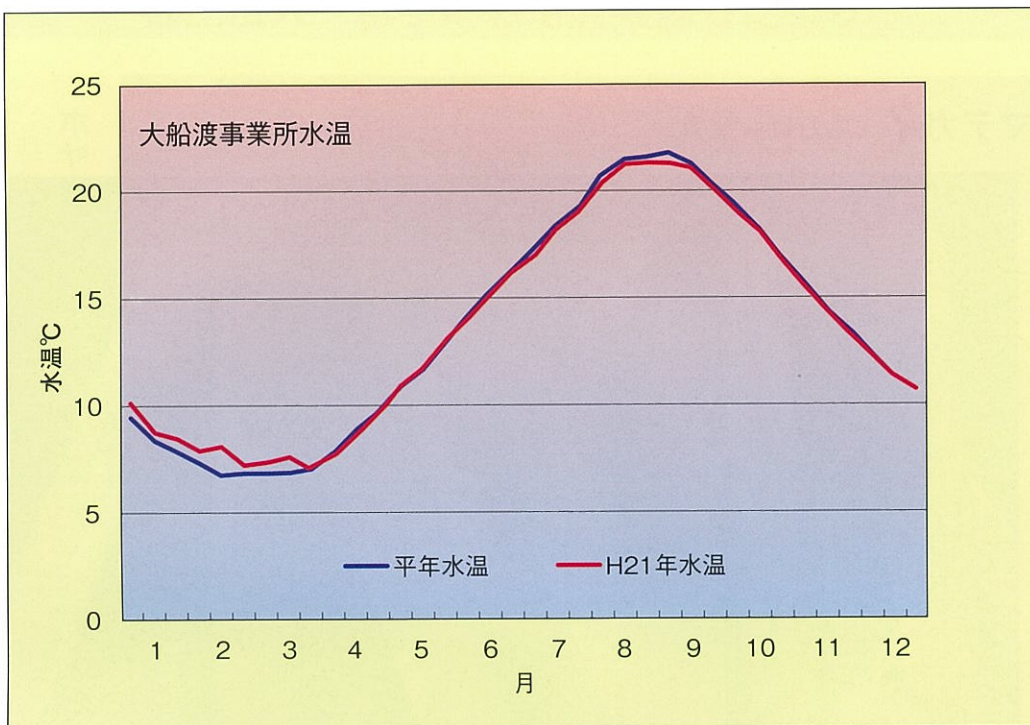
平成21年度 アユ種苗生産実績

区分	ふ化尾数(千尾)	取り上げ数(千尾)	収容数(千尾)	生残率(%)
種苗生産	35,259	11,319	8,989	32.1
区分	県内(kg)	県外(kg)	合計(kg)	平均体重(g)
出荷数量	2,063	1,585	3,648	0.56

海上あてな

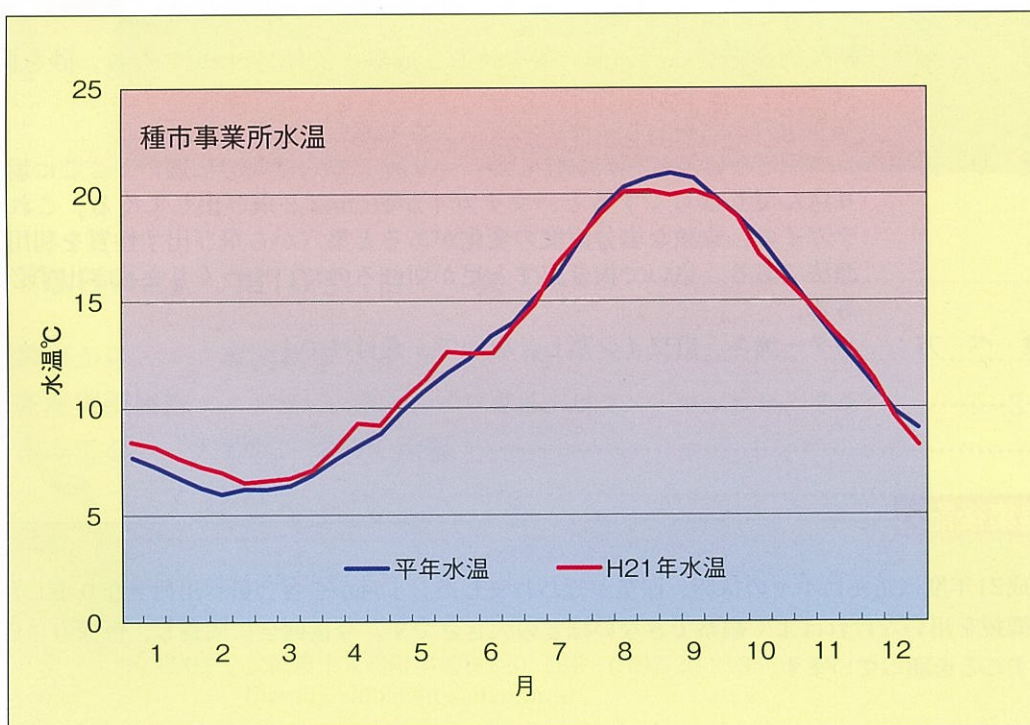
大船渡事業所水温

年始より初春にかけて平均より若干高く、それ以降は平年並みに推移しました。



種市事業所水温

年始より初夏にかけて平均より若干高く、それ以降は平年並みに推移しました。





酒のさかな

三陸の肴について紹介します。チョット一杯のつもりが!

●マテガイ (馬刀貝 蛸貝)



photo 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

- 呼 び 名: マテガイ 馬刀貝 蛸貝など
- 特 徴: 特徴的な細長い形の薄い殻を持ち、成貝は殻長10cm程になる。砂を掘り、数10cm～1m程度の深さに住む。
- 分 布: 東北地方を北限とし、波のおだやかな内海の砂浜に見られる。
- 獲 り 方: カニ類等も砂浜に巣穴を作るが、マテガイの穴は菱形に近い。ここに塩を振り込んでしばらくすると、マテガイが数cmほど飛び出してくる。これはマテガイの、急激な塩分濃度の変化があると巣穴から飛び出す性質を利用した漁法である。急いで抜き出すと足が切れるので、ゆっくりと抜き出す必要がある。
- 食 べ 方: バター焼き、白ワイン蒸し、塩ゆで、煮付けで!

編集後記

平成21年度は新たにホヤの採卵、採苗が行われました。1月から各会員へ出荷となりましたが、まだ顕微鏡を用いなければよく観察できないほどの大きさです。今後健全に成長し、皆様方に恵みをもたらすことを願っています。